

# しらおい この一年 主な出来事

2020年（令和2年）も残すところ1カ月。皆さんにとってはどんな年だったのでしょうか。今年全国がCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）に見舞われ、経済活動・国民生活は中止・休止・休業・休校・自粛などかつて経験のない影響を受け、結果、ウイズ・コロナの新たな生活様式が求められるようになりました。白老町も今年にはコロナ禍の「暗」に覆われましたが、町史でもエポックとなるウポポイ開業という「明」という二つの大きな要因に揺れました。主な出来事を振り返りました。（広報編集室）

### 1月

12日、白老コミセンで町成人祭が催され、男女107人が社会人としての決意を新たにしました。いつも通りの年の初めを迎えたかに思えましたが、月末には日本人初のコロナ感染者が発表され、現在（11月15日）の道内で感染者累計5494人、死者127人にも上ろうとはだれが予想したでしょう。

### 2月

国内初の死者確認、首相が全国の学校に臨時休業を要請と、コロナ禍が本格化する兆しを見せ始めました。町内では4月24日オープン予定のウポポイ開業に向け、来町する観光客のおもてなし準備、お土産など新商品の開発、新・改修店舗の開店、白老駅改修と自由通路の建設、コープ横踏切の拡幅、国道36号社台―苦小牧の一部延長4車線化などソフト、ハードの受け入れ態勢整備が着々と進められました。

### 3月

JR北海道が停車拡大した特急「北斗」の一番列車が白老駅に乗り入れ。さまざまな歓迎イベントは中止となりましたが、「いよいよ開業」という機運が生まれました。また、このころから企業や団体、町民による、子どもや高齢者など町

## ウポポイ開業とコロナ禍の明暗

### 4月

ウポポイとポロトミシタラ（白老駅北観光商業ゾーン）を結ぶ新たな観光拠点・観光インフォメーションセンターがオープン。感染拡大防止による途中休業もありましたが、10月には来場者10万人を突破しました。大規模改修を終えた子育て拠点・子育てふれあいセンター（すくすく39）に再び子ども達の歓声が戻りました。バイオマス燃料化施設の廃止に伴い、燃料ごみの排出方法が変更。中旬には政府が、7都府県に限定していた緊急事態宣言を全国に拡大。下旬にはコロナ禍で不安視されていたウポポイの開業日程が5月29日に延期が発表。結局、再度の延期を余儀なくされました。

### 5月

コロナ禍に伴う国、道、町などによる緊急経済対策や制度・規則の緩和・変更、

### 6月

特別措置などが続々と打ち出され、紙面でも「新型コロナウイルス関連」としてまとめ、町民の皆さんに情報を周知し始めました。

### 7月

町内外からの3、4万人の人数でにぎわう町内最大イベント「牛肉まつり」がコロナ禍により中止。この後も例年行われている虎杖浜かに・たらこ・温泉三大まつり、しらおいチエブ祭など大きなイベントが相次いで中止となりました。中旬には東京オリンピックの聖火ランナーがわがまちを走り抜ける予定でしたが、これもオリンピックの1年延期でなくなり、町民を悲しませました。まちづくりの羅針盤・白老町総合計画の第6次計画が策定され、新たな一歩を踏み出しました。新事業のリクエスト給食が始まり、子どもたちを楽しませました。

### 8月

ウポポイ開業に合わせて、化の一端に触れていました。ウポポイ開業に合わせて、にぎわい創出と来町者へのおもてなしを狙ったポロトミシタラフェスティバルが毎週末にスタート。特産品の販売や食の企画、子ども向けイベント、音楽祭、フリーマーケットなどさまざまな企画で盛り上げました。同所の観光インフォメーションセンターは同フェス最終の10月11日までに来場者10万人を達成。同月には町整備の大型遊具もお披露目されました。

### 9月

国の最も重要な統計調査といわれる5年に一度の国勢調査が実施。今回はコロナ禍と非接触となるよう回答はできる限りインターネットか郵送で協力をお願いする異例の事態となりました。町内で8、9月、交通死亡事故が2件発生。人と旗の波の緊急実施や町内会回覧による交通安全を呼び掛けるなど、危機感が高まりました。

### 10月

ウポポイに道内外からの修学旅行生など児童生徒の来場が本格化。何台も列を連ねる大型観光バスが町民の目に留まるようになりました。9、10月には計4万

### 11月

1千人もの学生が訪れ、若い世代が熱心にアイヌ文化を学ぶ姿が見られました。開業100日に来場者は12万人を越える滑り出しとなりました。月末にはプロ野球ドラフト会議で、町出身の若林業人選手（白老中出身）と根本悠楓選手（白羽中出身）がそれぞれ、西武ライオンズ、日本ハムファイターズから指名されるビッグな朗報が飛び込み、町民を喜ばせました。町も早速、庁舎正面に懸垂幕を掲げ、お祝いムードを盛り上げました。

例年4日間だった白老町文化祭が、2日間に日程を短縮し展示部門だけの形で開催。町民文化の花を咲かせました。道アイヌ協会主催の「アイヌ民族文化祭」がウポポイを会場に開催され、文化公演や講演が盛大に催されました。

全国的なコロナ禍で、例年通りの生活ではありませんでした。トピック的な話題も少なかつたので、「しらおい この一年」でまちの息遣いを記録として振り返る企画を―と考えました。年末近くにもなると、コロナ感染拡大対策の徹底の下、集会やイベントなど町民生活が徐々に戻りつつある感が漂い始めています。迎える新年は、町民の皆さんにとって良き年になるようお祈りいたします。（竹）